

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

70

私は群馬県各地に行くのが好きだ。新聞やテレビニュースで話題の場所を見掛けると、すぐに行きたくなる。そして、すぐに週末の日程がいつばいになる。

今まで、上毛かるた、上野三碑、絹の世界遺産、メロデーライン、ダム湖百選のダムなどをコンプリートしてきたが、古墳だけは手を出してこなかった。以前調べたところ、群馬県は東日本随一の「古墳大国」で、古墳の総数はかつて1万3249基もあったらしく、すべての古墳に行くことはほぼ不可能だからだ。

「古墳大国」12基巡る

でも、昨年に12基の古墳がピックアップされ、それらを巡ると古墳カードがもらえるという企画が出されたのだ。さらに、すべての

歴史学び疑問が氷解

式石室の古墳もあれば、八角形の古墳もある。

ともいろいろと知れるのだ。そして、12基の古墳巡りに丸3日ほど費やして、カードホルダーをもらったときは子どものようにうれしかった。

そして何とも素晴らしいのが、古墳カードをもらう場所が、古墳の近くの歴史資料館であること。歴史資料館も拝見すると、群馬県やその地域の歴史が分かる。面白かったのは、その地域の地名の由

も拝見すると、群馬県なせ1万3千程の古墳があるのか、不思議に思っていた。そうした

豚はいたが、馬はあまりおらず、馬を大量生産する必要が生じて、それを群馬県が担っていたというのだ。なので、群馬県の古墳には、大和朝廷の古墳と同じ形や相似形の前

カードを集めるとカードホルダーがもらえるという。「12基なら行ける」と思った私は、早速古墳巡りを開始。巡って古墳カードを

来、上毛三山の歴史、群馬県の街道の歴史などなどが解説されていることだ。いろいろと疑問に思っていることが氷解するほか、疑問に思っていなかったこ

ところ、ある歴史研究家の講演会を聞きに行ったら、その先生は、古墳時代、群馬県が馬の生産地として栄え

近、当県の古墳がテレビコマーシャルで取り上げられたのは、大変うれしい。すぐさま、再度訪れたところ、訪れる人が以前よりもかなり増えたのも、さらにうれしい。

もつと、その古墳の造られた時期、大きさ、特徴が書いてあるのだ。何と東日本第1位の大きさを誇る古墳もあれば、関東で最も古い時期に作られた横穴

岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを

経て、2018年4月から現職。

